

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基本とし、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かな児童の育成を目指し、次の三項目を教育目標とする。

- 思いやりのある子 …自分に自信をもち、友だちを大切にできる子
- よく考える子 …めあてをもち、意欲的に学習する子
- たくましい子 …あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子供が学びたくなる、明るく楽しい学校 ○保護者や地域の方が通わせたい学校 ○教職員が協働し、充実感と誇りのもてる学校
○児童・生徒像	○自分に自信をもち、友だちを大切にできる子 ○めあてをもち、意欲的に学習する子 ○あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子
○教師像	○子供のよさを認め・伸ばし、情熱をもって育むという信念をもつ教職員 ○協働性を重んじ組織の一員として自己の職責を果たすことができる教職員 ○授業力向上のために、努力を惜しまない教員 ○課題を解決するために、主体的に考え、新たな発想を生み出すことができる教職員 ○考えや発想を、適時実践に移すとともに、自己評価を適切に行い研鑽する教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○学校の現状について

令和7年4月現在604名の児童が在籍している。令和7年度は97名の新1年を迎え18学級でスタートした。また、特別支援教室には40名を超す児童が入室予定となっている。教員の入替のピークは過ぎたものの、これまで中核を担っていた複数の教員の異動があり組織の再構築が求められている。学校は落ち着いており保護者・地域も協力的であるが、学力に関しては、現状維持もしくは一部の学年で課題が残っている。

令和7年4月に新たに加わる教職員はもとより、改めて教職員集団の協働性を育み、常に協働性と組織的対応、学校として、共通の指導観をもって職務を遂行し保護者・地域から信頼を得る学校運営を実現していきたい。そのためには、校長が明確な経営方針を発信し、副校長・主幹教諭を組織の要として他の教職員を導けるようにしていかなければならないと考えている。教員同士が互いに声を掛け合い、専門性を生かして研鑽し合い指導力を高め合える教員集団を目指したい。

令和7年度も引き続き持続可能な学校運営ができるよう、今後の加平小学校を担う人材の育成を確実に行う。これからもライフ・ワーク・バランスを保ちながら教育の質の担保等、人員が入れ変わっていく中でも、学校教育全般が円滑に進められるよう全教員で取り組んでいく。また、開校60周年の年であることから、一層の愛校

心や地域愛を育むために保護者や開かれた学校づくり協議会など地域の方々との連携を一層充実させ、多様な人との関りを意図的に展開した教育活動を充実させ子供たちに最良の教育を提供していきたい。本校の歴史と伝統を受け継ぎ、引き続き学校改革を推しすすめていく。

重点的な取組事項ー1 人権と生命を尊重する教育

「学校は楽しい」の項目は自己評価91.9%、達成基準94%は2.1ポイント下回る結果となった。コロナ禍を経験した児童の中には、人との関わりが円滑にできなかったりコミュニケーションが十分に取りなかつたりしている状況があり、その一助として「区フューチャースクール」の事業も活用し、多様な人との関りを教育活動全体の中で意図的に設定することにより望ましい人間関係の醸成を育んでいる。また引き続き、人権教育や道徳教育の充実、ふれあい月間、たてわり班活動、音楽集会・鑑賞教室等による「心の教育」の充実も図っている。加えて、学習指導や生活指導においてもクラスの枠を超えた教員も子供たちも含めた多様な人との関わりを通して重点事項に掲げた目標数値の達成を目指している。

多くの子供たちが「学校が楽しい」と回答しているものの十分でないことを謙虚に受け止め、引き続き多様な人との関りの中で、生活指導の基本方針に掲げている「み・そ・あ・じ」の取組を中心に指導していくとともに、今後も多様な人との関りを意図的に設定し子供同士や教員との望ましい人間関係の構築を目指し、全ての子供たちが楽しい学校生活であるよう引き続き規律ある行動ができるよう学校全体で指導していく。

また、様々な形で挨拶運動を展開する。例えば、PTAによる挨拶活動を学校公開期間に実施する。また、児童による挨拶活動を学級ごとの輪番制で実施する。教職員による挨拶活動も通年で取り組み、子供たちの豊かな心を醸成していく。

重点的な取組事項ー2 基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)

昨年度、区学力調査通過率80%以上を目指した。結果、通過率は国語82.8%、算数は83.3%で目標を達成することができた。全体としては、目標を達成しつつも、一昨年度の通過率国語88%、算数 85.9%と微減となってしまった。平均正答率70%に達成していない児童を中心に児童一人一人の基礎的基本的な学力定着状況を把握して、つまずきのポイントを絞って繰り返し指導した。加えて、AIドリルを学校・家庭学習で積極的に活用し学力の定着を図ってきた。特に平均正答率が30%未満の子供たちが一定程度いることから、目標値に達しなかった児童に関しては、放課後指導において、個に応じた課題を用意し指導配置の教員も増やして、基礎的・基本的な学力の定着に努めている。結果、半数以上の児童が再テストにおいて2ポイント以上あげることができ、10ポイント程度上回る児童もいる結果となった。引き続き85%以上達成に向けての指導を重ねている。

また、小中連携の取組では、教育課題を基に三分科会を編成し学力向上を目指した。各分科会では、講師を招聘し、研究授業・協議会を通して、小中の学びの連続性と児童・生徒のやる気を引き出す工夫について互いに学び合い、授業力・指導力の向上に努めた。また、校内では年間を通して、学年間で授業を交換したり、学年主任が特定の教科を担当しながら指導の質を平準化したり、学年で教材研究を進めている。また、授業力向上研修として、互いの授業を見合い助言し合う機会を一人6回ずつ設定し授業力・指導力を互いに高めていく。今年度も引き続き、児童一人一人の基礎的・基本的な学力の定着を目指したい。

重点的な取組事項ー3 体力向上に向けた取組の推進

昨年度の体力調査の結果から、投力・握力・柔軟性・瞬発力が都の平均を下回っていることが分かった。瞬発力は都の平均を1.6ポイント上回っていたが、握力、投力は1.2ポイント、柔軟性は4.7ポイントも下回る結果となった。特に柔軟性については、日々の授業の中でも柔軟性を意識した準備運動や補助運動を取り入れる

ことができるように教員の指導力を高める実技研修を行い体育部が作成した授業に関する資料の提供により、短縄跳びの取組や体づくりの運動、持久走の取組などを展開し、子供たちの体力向上に努めている。

また体力向上の取組として、体育の授業や休み時間に季節ごとに実施している「エンジョイタイム（ロング昼休み）」「らんらんタイム」「大縄チャレンジ」「短縄の取組」、外遊びを推奨し体を動かす機会を意図的に設定し体力向上と健康な体づくりに努めている。加えて「新加平ギネス」を新たに再開し、体力テストの結果や短縄の取り組みを頑張っている児童を紹介するとともに、目標記録の可視化を行ってきた。しかし、初夏から秋まで猛暑・酷暑が続き外で遊ぶことができず十分な体力向上に至らなかった。保健指導は、計測時に行う保健指導や保健だよりによる啓発、食育指導については、輪番制で実施を再開したランチルーム給食、給食だよりによる食育指導など充実を図ってきた。常にPDCA（計画→実践→評価→改善）のサイクルで改善し続けてきたことで成果を上げている。

今年度も常にPDCAサイクルを大切に取組の充実に努めたい。加えて、体力調査の結果から課題を焦点化し、体育の授業の改善、日常の運動する機会の設定等を実施していくことで子供たちの体力向上を目指したい。また、一層、保健指導・食育指導の充実を図りたい。

重点的な取組事項—4 地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現

教科等を横断した学習活動を通して現代社会の課題を主体的に学び解決していこうとする意欲を育むとともに SDGs を意識した持続可能な社会の担い手としての意欲と態度を育成・開発している。

魅力ある教育活動として、例えば、低学年の生活科の学習において地域の公園を活用した取組、地域にある「六町駅前安全安心ステーション(ろくまる)」を活用した教育活動を実施している。各学年、地域にある境域資源を活用し、様々な取り組みを行うことができた。また、全学年、毎日、タブレット端末を持ち帰りタブレット端末を活用した家庭学習も実施できた。加えて、今年度は多様な人との関りの取組の一つとして、縦割り班活動において、障害者の有無に関わらず誰もが楽しめる障害者スポーツ「ボッチャ」の取組を行った。また、「開かれた学校づくり協議会」の皆様のお力を借りて、伝統の「加平みそづくり」「漢字検定」「算数検定」等を実施することができた。

今後も、障害者の有無に関わらず誰もが楽しめる障害者スポーツ、「ボッチャ」を通じた交流活動を全校で実施していくことで共生社会の意義を理解させたい。更に、俳句や「加平小かるた」、「決まり字かるた」、「あだち環境かるた」の活用や席書会の実施等、伝統的な言語文化に関する指導を通して古典に親しみながら我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育むなどの教育活動を展開したい。更に今年度は開校 60 周年の年であることから、引継ぎ地域の特色にあった魅力ある教育活動を展開するとともに、「開かれた学校づくり協議会」と連携して、学校・家庭・地域の連携・協働を高め、地域と共に育てる教育の推進と特色ある学校づくり、持続可能な学校運営の実現を目指したい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	人権と生命を尊重する教育	◎	◎	◎	◎	○
2	基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)	◎	◎	◎	◎	
3	体力向上に向けた取組の推進	◎	◎	◎	○	
4	地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現	◎	◎	◎	○	

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項ー1		人権と生命を尊重する教育			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感・思いやりの心を育てる (第1PJ)		「楽しく学校生活を送っている」 自己評価94%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
読書活動の充実 (第3PJ)	読書ファイルと読書ビンゴ ・児童アンケート「楽しんで読書できたか」自己評価 85%以上 ・読書ビンゴで 5 種類の本を読めた 自己評価 80% ・各学期に 1 回以上は調べる学習を行う。	日常的に読書活動に取り組み、本に親しむ態度を養う。 ・読書タイムの時間(15分)自席で読書をする。(週3回) (全学級週1回以上は図書室を割り当てる。) ・旬間中は、目標冊数(低10冊・中400ページ・高500ページ)に向けて読書をする。 (読書旬間 6月と11月) ⇒読んだ本の感想などを読書カードに記入する。 ・図書ボランティア、教員や図書委員会による読み聞かせを年10回行う。	自己評価の際に記入		

なかよし標語 (第2PJ)	児童アンケート 「友達に優しくできた」 肯定的評価92%以上	テーマを決めて児童に言葉を書かせ、期間中掲示する。年2回 5月「言われた相手がうれしい気持ちになる言葉」 10月「みんながうれしい気持ちになるために自分にできること」 ハート型の用紙を連ねて廊下に掲示する。1年生は用紙を切ることが難しいため、6年生が切ってあげる。1年生はそのお礼をして交流してもよいこととする。	自己評価の際に記入
あいさつ運動 (第2PJ)	生活習慣チェック(年3回)「自分からすすんであいさつをした」 肯定的評価92%以上	看護当番(日直)が毎朝昇降口前に立ち、登校を見守りながら児童に挨拶をする。(通年) 輪番制で学級ごとにあいさつ当番として登校時にあいさつ運動を行う。(年1回、1週間ずつ) 学校公開期間中は開かれた学校づくり協議会やPTAの役員の方にあいさつ運動に参加していただく(年2回)	
道徳教育の充実 (第3PJ)	「ふりかえりカード」(児童アンケート)実施 「友達と仲良く助け合うことができた」「友達やクラス、学校のために行動することができた。」 肯定的評価 85%以上	毎週1時間の道徳授業を要に全教育活動で実施 【指導体制】 全教職員 【取り組みのねらい・目的】 ・思いやりの心を育む。 ・人権・生命尊重に関する授業を年3回実施 ・道徳地区公開講座の実施 ・道徳授業地区公開講座で心に関わる掲示をする。	

児童集会の充実 (第2PJ)	「ふりかえりカード」(児童アンケート)実施 友達やクラス、学校のために行動することができた。 2月 肯定的評価 85%以上	毎週木朝 15 分 【指導体制】 全教職員 【取り組みのねらい・目的】 ・協力・助け合いの心を育む ・縦割り班遊び、清掃の実施 ・児童集会・音楽集会の実施	自己評価の際に記入
-------------------	--	---	-----------

重点的な取組事項ー2		基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的基本的な学力の定着 (第3PJ)		・区学力調査目標 通過率 80%以上 ・9月 到達目標 全体 通過率 85%以上		自己評価の際に記入					
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続・改善	朝学習の 充実 朝授業(国語)の充実	算数 国語	毎週 水曜日(算) 火・金曜日(国) 朝15分	【指導体制】 担任+専科による 【ねらい・使用教材】 ・学習内容の復習 ・算数 東京ベーシックドリル ・国語 漢字ドリル	東京 ベーシック ドリル 漢字テスト	算数 前年度までの内容 12月までに 100問以上 国語 漢字 50 問テスト 80点以上 7割	自己評価の際に記入		

継続・改善	放課後補充教室 算数 (全教職員)	目標値未満の児童	毎週 木 放課後 低:40分 高:30分	【指導体制】 担任+専科 【ねらい・使用教材】 ・つまずきに応じた指導 ・区学力調査問題、過去問題 ・次へのステップ AIドリル	区学力調査 定着度 確認テスト (9月実施)	対象児童を4月の 算数結果点数 より2ポイント以上 の児童 5割以上	自己評価の際に記入
継続	「家庭学習の手引き」の活用	全児童	年3回	【ねらい・目的】 ・「家庭学習の手引き」の配布 (4月)、啓発 (6月・9月・11月) ・宿題の提出率把握と指導	宿題提出 状況調査	宿題提出率 1回目85%以上 2回目88%以上 3回目90%以上	
継続	家庭学習の充実	全児童	毎日	【ねらい】 基礎学力の定着を図る取組の一つとして、家庭にタブレットを毎日持ち帰り AI ドリルに取り組ませる。	実施状況	低学年(1~3年) 毎日10分以上 高学年(4~6年) 毎日15分以上	
継続・改善	授業力向上 (第3PJ)	教員	毎日	【取り組みのねらい・目的】 ・管理職、教科指導専門員による授業指導3回以上 ・タブレットの活用推進(一日一回以上活用)	授業研究実施	足立スタンダード 虎の巻を生かした授業アンケート 肯定的評価 80%以上	

重点的な取組事項－3		体力向上に向けた取組の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
健康な体づくり (第1PJ)		○体力・運動能力調査結果 握力・持久力・投力の3種目を 都の平均に近づける	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
健康な体づくり (第1PJ)	外遊びを進んでする 運動することが好き 自己評価90% 以上	外遊びの奨励 エンジョイタイムの実施 (年10回) 長縄跳び(年4回) らんらんタイムの取組(年5回) 体育朝会(年2回)	自己評価の際に記入		
体力・運動能力調査 (第1PJ)	体力・運動能力調査 結果で、握力・持久力・投力 を都・全国の平均に近づける。 数値の変化で考察する。	調査結果を基にして強化領域の決定 体育指導技術向上のための実 技研修(年3回)			
		体力調査の運動につながる体育的 活動や運動する機会を創出する。 ・全学年が取り組める体力が高ま る場の提案			
食育の推進 (第2PJ)	食育指導の実施	・栄養教諭によるランチルーム給食 時の食育指導実施 (各学年3回以上)			

保健指導 (第2PJ)	保健指導の実施	担任と養護教諭・栄養教諭の連携授業 ・保健指導(3・4年各1回) ・食育指導(2・3年各1回) 発育測定時の保健指導実施 (全学年 年3回) 歯みがき指導 ・養護教諭による(3年) ・歯科衛生士による(1・5年) ・全国歯みがき大会参加(6年)	自己評価の際に記入
----------------	---------	--	-----------

重点的な取組事項－4		地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
魅力ある教育活動の展開 (第2PJ)		各学年が地域にある教育資源(人・施設等)を活用した授業を実施する。	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
伝統的な言語文化に関する指導 (第1PJ)	席書会の実施(参加率9割以上) かるた、百人一首等の実施状況により考察	書写(硬筆・毛筆)指導 「加平小かるた」(低) 「あだち環境かるた」(中) 「百人一首」(高)の活用	自己評価の際に記入		

「六町駅前安全安心ステーション(通称「ろくまる」)」 (第3PJ)	・児童アンケート 肯定的評価 80%以上 ・各学年の実施状況	・全学年が教科等の関連を明らかにした教育活動を実施する。 1年・2年…「ろくまる」に行って働く人や利用している様子を見てその様子を絵に描いたり言葉にしたりする。 3年…「ろくまる」の庭を整備する地域ボランティアの活動や、ろくまる体験の行事など、地域の活動を調べ、学年内で発表会をする。 4年…誰もが住みやすい町であるために「ろくまる」では、どんな工夫をしているか調べ、仕事を一緒に行わせていただき、1年生またはたてわり班の人に紹介する。 5年…「ろくまる」の方に、六町のためにどのような思いで努めているか、どのようなことをされているのかをインタビューし、新聞、パンフレットにまとめて校内に紹介する。 6年…「ろくまる」がどのようにできたか歴史を調べたり区役所や「ろくまる」の方に聞いたりしてまとめる。自分たちが地域のためにできることはないか考え、「ろくまる」の方と相談し、活動したり地域に呼びかけたり、ろくまるに統計グラフやポスターを貼らせていただいたりする。	自己評価の際に記入
タブレット端末を活用したICT教育の推進 (第1PJ)	実施状況で考察する。 ・年3回教員を対象にしたOJT研修を実施 ・家庭学習におけるタブレット端末の活用 ・AIドリルの活用	・年に3回、教員を対象にしたOJT研修を実施する。 ・全学年、毎日のタブレット端末の持ち帰り、家庭学習で使用する。 ・AIドリルの活用を促進する。	

地域との連携 (第2PJ)	実施状況で考察する。 または アンケート	開かれた学校推進協議会と共催で 「加平みそづくり」「漢字検定」「算 数検定」「茶道教室」「落語教室」 を開催する。	自己評価の際に記入
「加平小学校 2020 レ ガシー」 (第3PJ)	アンケート 「様々な人とスポーツ(ボッ チャ)をすることができた」 肯定的評価80%以上	「障害者理解」に関する具体的な 取組として、障害者の有無に関わら ず誰もが楽しめる障害者スポーツ、 ボッチャを通じた交流活動を実施 することで共生社会の意義を理解 させる。 全学年でボッチャを実施 縦割り班活動においてボッチャ大 会を実施	

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らし
て圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公
表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）